

4.開国と不平等条約



目標時間

10分

- (1) アメリカは日本を太平洋横航路の中継地にするため、東インド艦隊司令官の()を派遣した。
- (2) (1)は1853年、4隻の軍艦を率いて()に来航し、日本に開国を求める国書を、江戸幕府に差し出した。
- (3) 1854年、再び来航したペリーと結んだ条約。
- (4) (3)のときに開いた港。(2つ)これらの港でアメリカに食料や燃料を供給した。
- (5) 1858年には結んだ条約。
- (6) (5)のときに開いた港。(5つ)これらの港で自由な貿易を行った。
- (7) (5)の後次いで、幕府がオランダ、ロシア、イギリス、フランスともほぼ同じ条約を結んだこと。
- (8) (7)の条約は(①)を認め、(②)がないなど日本に不利な内容をふくんでいた。
- (9) (8)のような条約。
- (10) 貿易の最大港は横浜港で、相手国の中心はどこのか。
- (11) このとき東日本を中心に何の生産がさかんになったか。

ペリー

浦賀

日米和親条約

下田(静岡県)、函館(北海道)

日米修好通商条約

函館、神奈川(横浜)、長崎、新潟、兵庫(神戸)

安政の五か国条約

① 領事裁判権 ② 関税自主権

不平等条約

イギリス

生糸

日付

1回目

日付

2回目

日付

3回目

(間違えた番号)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
11

(間違えた番号)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
11

(間違えた番号)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
11

